

Sound
Sound
Live
Live
Tokyo
Tokyo

www.soundlivetokyo.com

facebook.com/soundlivetokyo
[@soundlivetokyo](https://twitter.com/soundlivetokyo)

音と音楽に関わる表現の可能性を探求するフェスティバル

サウンド・ライブ・トーキョー

平成26(2014)年11月5日(水)～12月28日(日)

【参加アーティスト】

マイケル・スノウ 恩田晃 アラン・リクト ケイス・ブルーム 工藤礼子
ローレン・コナーズ 灰野敬二 カール・テオドア・ドライヤー
中村達也 Merzbow MURASAKI 吉原太郎 NOEL-KIT ジム・オルーク
畠山地平 町田良夫 柴山拓郎 CoH クリストフ・シャルル カール・ストーン
Small Wooden Shoe dracom ほか

本プレスリリースに関するお問い合わせ

PARC - 国際舞台芸術交流センター

広報担当：山崎奈玲子 (やまざき・なおこ)

〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南 3-1-2-3F

Tel : 03-5724-4660

Fax : 03-5724-4661

Mail : yamazaki@parc-jc.org

Web : www.parc-jc.org

もくじ

P. 2 開催概要

P. 3 ごあいさつ

プログラム詳細

P. 4 マイケル・スノウ+恩田晃+アラン・リクト

P. 5 ケイス・ブルーム+工藤礼子

P. 6 裁かるゝジャンヌ — ローレン・コナーズ+灰野敬二

P. 7 東京都初耳区 (ライブ・パフォーマンス)

P. 8 東京都初耳区 (サウンド・インスタレーション)

P.10 Antigone Dead People — Small Wooden Shoe + dracom

P.11 スケジュール/チケット/会場

開催概要

名称 日本語：サウンド・ライブ・トーキョー

英語：Sound Live Tokyo

会期 平成 26 (2014) 年 11 月 5 日 (水) ~ 12 月 28 日 (日)


会場 WWW、SuperDeluxe

主催 東京都

東京文化発信プロジェクト室 (公益財団法人東京都歴史文化財団)

PARC - 国際舞台芸術交流センター

後援 在日カナダ大使館

 平成 26 年度文化庁国際芸術交流支援事業



東京文化発信プロジェクトは、「世界的な文化創造都市・東京」の実現に向けて、東京都と東京都歴史文化財団が、芸術文化団体やアートNPO等と協力して実施している事業です。多くの人々が文化に主体的に関わる環境を整えるとともに、フェスティバルをはじめ多彩なプログラムを通じて、新たな東京文化を創造し、世界に発信していきます。http://www.bh-project.jp

ごあいさつ

サウンド・ライブ・トーキョーは、音と音楽に関わる表現の可能性を探求するフェスティバルです。3回目の開催となる今年は、渋谷・六本木の東京を代表するライブハウスを会場に、北米と日本のアーティストのコラボレーションを中心にお届けします。これまで以上に多くのアーティストが参加、ジャンルはジャズ、フォーク、ブルースから電子音楽、無声映画、演劇と多岐にわたり、それぞれのアーティストが貪欲かつ批判的に吸収してきたジャンルに至っては列挙することがほとんど不可能です。

マイケル・スノウは、映画作家、美術家、音楽家として活動しながら、映画、美術、音楽の間に横のつながりをほとんど作らず、各ジャンルの潜在力を最大限に引き出している稀有なアーティストです。彼の「構造映画」や美術に比して音楽はまだあまり語られておらず、スノウ自身もそれほど言葉を費やしていないのは、音楽というジャンルの性質によるのかもしれませんが、彼が現代で最も重要なジャズ・ピアニスト／インプロヴァイザーの一人であることは間違いありません。今回は彼の最新のプロジェクトである**恩田晃**、**アラン・リクト**とのトリオに加え、スノウのピアノソロと恩田+リクトのデュオをお送りします。84歳、約25年ぶりの来日です。

シンガー／ソングライターという活動形態は、シンプルですが、それだけにあらゆる人間的、社会的、自然的広がりと同じだけの広がりを持ち、たった一つの歌でその全てが露呈する恐るべきジャンルです。「誰でも歌を作って歌うことができる」、かつ「誰もが歌を作って歌うことができるわけではない」と言う矛盾して聞こえますが、今回が初来日になる伝説的シンガー／ソングライター**ケイス・ブルーム**と**工藤礼子**の歌を聴けばこの矛盾は矛盾でなくなり、必然性として、歓びのうちに感得されることでしょう。

あまたのギター・インプロヴァイザーの中でも一音でそれと分かる際立った独自性を持つ**ローレン・コナーズ**と**灰野敬二**に、初期ブルースの徹底的な研究という共通点があることは偶然とは考えられません。また、コナーズが傾倒し自ら音楽をつけたカール・テオドア・ドライヤー監督の無声映画『**裁かるゝジャンヌ**』には、長らく灰野敬二の靈感の源の一つとなっている劇作家／詩人／俳優アントナン・アルトーが出演しています。来日が待たれつつもパーキンソン病を患い長距離移動に危険が伴うコナーズは地元ブルックリンの会場、灰野敬二は渋谷の会場で演奏、『裁かるゝジャンヌ』を上映しながらインターネットで映像と音声を同期してのセッションをお届けします。

昨年好評をいただいた「**東京都初耳区**」を再度開催します。新人アーティストを公募しての**ライブ・パフォーマンス**は、強力なゲストアーティストに迎えられ、まだ見ぬ表現が躍動する一夜となることでしょう。また、今回は別途**サウンド・インスタレーション**企画を実施。多様なバックグラウンドのアーティストが同一セッティングのマルチスピーカーシステムをそれぞれの技術で使いこなし、視覚的要素に依存しないハードコアな音響作品を発表します。

演劇において音は台詞／声、俳優の身体活動に物理的に伴う音、効果音、音楽など複数のレイヤーで同時に機能していますが、初来日するトロントの「ほぼ劇団」**Small Wooden Shoe**による『**Antigone Dead People**』は、あらかじめ録音された台詞を使うことで「声」の現前の力を敢えて排した作品です。声の力を排することで、演劇はどのような意味生産装置として機能するのか。近代以降さまざまな意味が読み込まれてきたギリシア悲劇『アンティゴネー』の最新の解釈としてその答えが提示されることでしょう。録音された台詞と身体のを活用した作品で評価を固めつつある関西拠点の公演芸術集団 **dracom** との共同作業による日本版、世界初演です。

音と音楽の悦び／音と音楽へのクリティカルなアプローチが共存するプログラムをぜひ体験してください。

サウンド・ライブ・トーキョー プログラム担当
新井知行 (PARC - 国際舞台芸術交流センター)

マイケル・スノウ+恩田晃+アラン・リクト

史上最大の実験映画作家が率いる、最新最強の即興演奏トリオ

『波長』(1967)『中央地帯』(1971)『The Living Room』(2000)などの大傑作で知られる実験映画作家**マイケル・スノウ**は、画家、彫刻家、ヴィジュアル・アーティストでもあり、1950年代にプロデビューしたジャズ・ピアニストでもあります。ジェリー・ロール・モートンやジミー・ヤンシーの影響下にディキシーランド・ジャズから活動を開始し、主に映画作家、ヴィジュアル・アーティストとして活動したニューヨークでは自身のスタジオをセッション会場としてポール・ブレイ、カラ・ブレイ、ミルフォード・グレイヴス、セシル・テイラーなどに提供、映画『New York Eye And Ear Control』(1964)ではサウンドトラックにアルバート・アイラー、ドン・チェリーらを起用し、フリー・インプロヴィゼーションの潮流を作り出しました。その後もトロントを拠点にCCMC (The Canadian Creative Music Collective) や音楽家でなく画家、彫刻家などからなる Artists' Jazz Band を通して、米国やヨーロッパのフリージャズ・シーンとは一線を画す、知性とユーモアと直観に溢れた演奏活動を継続。「映画作家として絵を描き、音楽家として彫刻を作り、画家として映画を作り、映画作家として演奏し、彫刻家として絵を描き、映画作家として彫刻を作り、音楽家として映画を作り、彫刻家として演奏する」というスノウは、しかしジャンルを決して混同せず、各ジャンルの特質や根本的矛盾を最大限に露呈させ、私たちの知覚を刷新するような活動を精力的に展開しています。ジャズの歴史を横断し、84歳にして最新の音楽を追求している現役ミュージシャン、約25年ぶりの来日です。今回は2005年に結成され、2008年にはアルバム『Five A's, Two C's, One D, One E, Two H's, Three I's, One K, Three L's, One M, Three N's, Two O's, One S, One T, One W』を発表したスノウ(ピアノ、CATシンセサイザー)、**恩田晃**(カセットレコーダー、エレクトロニクス)、**アラン・リクト**(ギター)のトリオをご紹介します。11月5日はスノウのピアノソロ、6日は単独で『Everydays』(2008)をリリースしている恩田、リクトのデュオも合わせてお送りします。ソロ、デュオ、トリオで全く違う音楽性。ぜひ2日通してご来場ください!

会場 WWW

日時 11月5日(水) 19:30 開演

・スノウ ピアノソロ

・スノウ+恩田+リクト トリオ

11月6日(木) 19:30 開演

・恩田+リクト デュオ

・スノウ+恩田+リクト トリオ

※開場は開演の30分前

料金 前売 2,500円/当日 3,000円



Artwork by Michael Snow and original photo by Kotaro Okada

アーティスト プロフィール



マイケル・スノウ | Michael Snow (カナダ)

カナダ生まれ。1950年代にプロのジャズ・ピアニストとして活動を開始し、60年代には『Walking Woman』の画像やジャンルそのものを定義し直すかのような「構造映画」『波長』でヴィジュアル・アーティストとしての評価を確立。1964年に映画『New York Eye and Ear Control』のサウンドトラックのためアルバート・アイラーらを起用し、フリー・インプロヴィゼーションという形式の確立に寄与。自身もインプロヴィゼーションとして音楽の探求を続ける。エヴァン・パーカー、ラズウェル・ラッド、デレク・ベイリー、トニー・コンラッドなどと共演するほか、CCMC(スノウ、ポール・ダットン、ジョン・オズワルド)の創立メンバーでもあり、ソロ・コンサートも活発に行っている。写真、ビデオ、映画、絵画、彫刻作品は世界各地のギャラリーや美術館で展示されている。



恩田晃 | Aki Onda (米国/日本)

エレクトロニック・ミュージシャン、作曲家、ヴィジュアル・アーティスト。奈良県生まれ、ニューヨーク在住。とりわけ、20年以上に渡って録り溜めたフィールド・レコーディングによる「サウンド・ダイアリー」を用いるプロジェクト『カセット・メモリーズ』で知られる。カセット・ウォークマンを楽器として使用。ウォークマンでフィールド・レコーディングを行うだけでなく、複数のウォークマンをエレクトロニクスとともに操りパフォーマンスを行う。近年はジャンルを越境した活動に注力し、映画作家やヴィジュアル・アーティストとのコラボレーションも多い。現在進行中のコラボレーションに、ケン・ジェイコブスとの『ナーヴァス・マジック・ランタン』、鈴木昭男とのサイト・スペシフィック・ハブニング、ラハ・レイシニャとのオーディオヴィジュアル・インスタレーション/パフォーマンスなど。akionda.net



アラン・リクト | Alan Licht (米国)

ミニマル・ミュージック、インディー・ロックからフリー・インプロヴィゼーションまで、75を超えるレコーディングに参加。現在、リー・ラナルド・アンド・ザ・ダストのギタリストであり、コリー・アーケンジェル、ハウィー・チェンとの「トーク・ロック」バンド Title TKでも活動。『サウンドアート — 音楽の向こう側、耳と目の間』(フィルムアート社、2010/原著2007)の著者、『Will Oldham on Bonnie 'Prince' Billy』(Faber & Faber / W.W. Norton, 2012)の編者でもある。長年のファンとして、マイケル・スノウに1990年代後半にインタビューしたことがきっかけで、カナダやシカゴのフェスティバルでともに演奏するようになる。同じ頃、恩田晃とのデュオを開始(アルバム『Everydays』を2008年にリリース)。恩田の2003年のアルバム『Bon Voyage!』を聴いてスノウの映画を想起し今日に至る。

ケイス・ブルーム+工藤礼子

歌を作って歌うことは人間に本来的に備わった能力

強いて言えば「エミルー・ハリスの深い源泉、ルー・リードの痛切な歌詞、マヘル・シャルル・ハシュ・バズあるいはジョニ・ミッチェルの歓び」（公式サイトより）に近いという伝説的シンガー/ソングライター、ケイス・ブルームの音楽と言葉は、カントリー、フォーク、ブルースといったアメリカ民俗音楽とも言うべき音楽的語彙を奇を衒うことなく用いていながらあくまで現代的な響きを持ち、誰にもジャンルを特定することができず、ただ直接的で深い感動を喚び起こします。1970年代から80年代半ばにかけて、ローレン・（マザケイン・）コナーズ、トム・ハンフォードらとの共同作業で数々の傑作アルバムを少数限定盤で発表して以降、アルバムが絶版になるに任せ、作曲を続けながら地元で子供たちに音楽を教えたり馬を訓練したりしていたブルームは、リチャード・リンクレイター監督の映画『恋人までの距離（Before Sunrise）』（1995、音楽フレッド・フリス）で名曲『Come Here』が使われたことで再発見され、近年は精力的にアルバムを発表、2009年以降はツアー演奏も行っています。子供たち、特に幼児に音楽を教えることで「歌を作って歌うことは人間に本来的に備わった能力」であることが分かる、そして「カオティックで有害でもあり得る感情の痛みを、創造的なエネルギーに転化することで、子供や大人の人生は変容する」と言うブルームは、その能力を脇目も振らず極限まで掘り下げたアーティストでもあります。初来日です！彼女を深くリスペクトする工藤礼子は、抑えようとしても浮上してくる「骨の中に閉じ込められた燃える火」（エレミヤ書 20:9）のような言葉を、現実を記録する「速記者」のように歌にしているといいます。遠くて近い2人の孤高のシンガー/ソングライター、初の共演。お見逃しなく！

会場 WWW

日時 11月11日（火）19:30 開演
※開場は開演の30分前

料金 前売 2,500円/当日 3,000円



Photo by Marie Roux

アーティストプロフィール



ケイス・ブルーム | Kath Bloom (米国)

トスカニーニやカザルスにも称賛されたオーボエ奏者であり作曲家、ロバート・ブルームの娘として、ニューヘヴンに生まれ育つ。幼少時はチェロを学んだが、「正統」な音楽教育を放棄し、近所の墓地でギターを独自に練習。あまりに墓地に頻繁にいるため、管理人から仕事を依頼されるに至った。1976年にローレン・コナーズと出会い、カントリー、フォーク、ブルース、霊歌、南部の労働歌などのエッセンスを取り入れつつアヴァンギャルドなオリジナル曲を中心に、1984年まで数々のレコードをコナーズやヴァイオリン奏者トム・ハンフォードとともに発表。その多くが50～300枚という少数生産で、長らく音楽ファン垂涎の幻の名盤とされていたが、近年復刻され反響を呼んでいる。1980年代後半以降は、子育てや馬の養育に従事しながら、作曲、バンド「Love at Work」としての地元での演奏活動、子供たちのための音楽教室を継続、静かに音楽性を深めていった。映画『恋人までの距離（Before Sunrise）』（1995）がきっかけで再発見され、新作アルバムに精力的に取り組むようになり、2009年以降はツアー演奏も行っている。kathbloom.com



工藤礼子 | Reiko Kudo

パティ・スミスの「Jesus died for somebody's sins but not mine」、ジョニー・ロットン（ジョン・ライドン）の「When there's no future, how can there be sin?」などの言葉に触れて不良になり、ピリー・ホリデイで心を養い、70年代末には吉祥寺のスペース「マイナー」を中心に活動、工藤冬里、灰野敬二、白石民夫らと出会う。ジュネ、鳥居ガク、佐藤隆史、工藤冬里ら流動的なメンバーからなり、徐々に解体し「Worst Noise Dance To Death」「Dance To Death」「Worst Noise」「Noise」と名称を変えたプロジェクトに参加、1980年に工藤冬里とのデュオ（当時大村礼子）としての「Noise」名義で『天皇』をリリース。1997年、初のソロアルバム『ファイア・インサイド・マイ・ハット』（ORG）を発表し、『天皇』の「死へと向かう純粋さ」をポジティブに乗り越えた鮮烈な言語と世界観を確立。以後も『人』『草』『ちりをなめる』『みかん』などの傑作を着実に発表。工藤冬里率いるマヘル・シャルル・ハシュ・バズにも時折参加し、曲も提供している。blog.livedoor.jp/deadoors/

裁かるゝジャンヌ — ローレン・コナーズ+灰野敬二

「理想的な沈黙」を凌ぐ音

カール・テオドア・ドライヤー監督は、自作『裁かるゝジャンヌ』（1928）がオーケストラや弁士なしで無音で上映されることを理想としていたといえます。しかし約70年後、『政府』『教会』あるいは何と呼んでもいいが、人間たちの頭脳の間でやりとりされる中で起きる、神的原理の歪曲（アントナン・アルトー）の犠牲者としてのジャンヌ・ダルクを描くこの傑作の極限的な表現の内奥を「聴こえる」ものにしようとするアーティストが出現。活動初期からすでに自身のレーベルを「St. Joan（聖ジャンヌ）」と名づけていた、前衛ブルース・ギタリストとも言うべきローレン・コナーズは、2001年に満を持して『裁かるゝジャンヌ』のサウンドトラックに取り組み、2012年には、デンマークで保存されていたオリジナルからデジタル処理を通して復元された最新版にコナーズの音楽を加えたBlu-Ray / DVDセットが発売されました。今回、パーキンソン病を患い長距離移動に危険が伴うコナーズを招聘することは敢えてせず、地元ブルックリンの実験的パフォーマンス・センター Issue Project Room で、映画が上映される中で演奏してもらいます。そしてインターネットを用いて映像と音を送り出し、東京ではもう一人の真の前衛ブルース・ギタリスト、灰野敬二が映画とコナーズの音を迎え撃ちます。ブルックリン/東京間の同期にわずかな遅延が生じますが、2人は時差や遅延も含めて「演奏」してしまうことでしょう。このために使わなかったらインターネットなど何のためにあるのか!? 同期をできる限り正確にするため、フィルムではなくデジタル上映になりますが、無声映画時代の上映速度と言われる20コマ/秒相当での上映で、本来の映像表現を引き出します。日本語/英語字幕つき。中世から現代を貫き、宗教的・政治的テーマとブルースの根源を共振させ、「理想的な沈黙」を凌駕する「音」を紡ぎ出す2人のパフォーマンスをぜひ目撃してください！

会場 WWW

日時 11月17日(月) 19:30 開演
※開場は開演の30分前

料金 前売 2,500円/当日 3,000円



Photo by Aki Onda



©Gaugmont

アーティストプロフィール



Photo by Aki Onda

ローレン・コナーズ | Loren Connors (米国)

1949年ニューヘヴン生まれ。ブルックリン在住。ギタリスト、作曲家、インプロヴァイザー。幼少時にヴァイオリン、トロンボーン、ベース、ギターを学ぶ。葬儀の場でよくJ.S. バッハを歌っていた母親に影響され、ブッチーニやショパンなどクラシックの作曲家に関心を持ちつつ、ロバート・ビート・ウィリアムスやマディ・ウォーターズなどのブルースにも魅了される。1970年代後半より『無伴奏アコースティックギター即興』シリーズを自主制作。また、ケイス・ブルームやトム・ハンフォードとの共同作業による一連のレコードではフォークやブルースにアプローチ。1984年から87年には音楽活動を休止し、復帰後はエレクトリック・ギターに移行、ディストーションやマルチトラックを駆使しつつ、デルタ・ブルースのボトルネック・サウンドを遠く思わせ、むき出しの繊細さと強さを持つ唯一無二のギター音楽を確立。『In Pittsburgh』(1989)や『Hell's Kitchen Park』(1993)などで評価を高め、アンダーグラウンド・シーンに見出され、以来100点近い音源を発表している。facebook.com/LorenConnors.guitarist



Photo by Aki Onda

灰野敬二 | Keiji Haino

1952年千葉県生まれ。アントナン・アルトーに触発され演劇を志すが、ザ・ドアーズに遭遇し音楽に転向。ブラインド・レモン・ジェファーソンをはじめとする初ヴォーカリスト期ブルースのほか、ヨーロッパ中世音楽から内外の歌謡曲まで、極めて幅広い音楽を検証し吸収。1970年「ロスト・アラーフ」にとして加入。また、ソロで自宅録音による音源制作を開始、ギター、パーカッションを独習する。1978年にロックバンド「不失者」を結成、ハードロックに全く新しい強力で重層的な次元を切り開く。1983年から87年にかけて活動休止。復帰以来、ソロのほか不失者、滲有無、哀秘謎、静寂、Vajra、サンヘッドリン、Nazoranai、Hardy Soulなどのユニット、Experimental Mixture 名義でのDJなど多様な形態で国際的に活動を展開。ギター、パーカッション、ハーティ・ガーティ、各種管弦楽器、各地の民間楽器、DJ機器などの性能を研ぎ澄まされた身体性と独自の演奏技術で極限まで引き出し生み出される比類のない音は、超越なきシャーマニズム、荒れ狂う知性と認識に満ちている。fushitsusha.com

東京都初耳区 (ライブ・パフォーマンス)

まだまだ巡りあったことのない新しい音と音楽に出会いたい！

企画・制作：SuperDeluxe

まだ巡りあったことのない新しい音楽に出会いたい！ そんな想いで開催した昨年9月29日の「東京都初耳区」は、新しい才能と豊かなキャリアを持つミュージシャンが共演を果たし、共に与え合う刺激が表現の新しいうねりとなり、記憶に刻まれる一夜となりました。1年の時を経て、東京都初耳区へのエントランスゲートが今年も開きます！

今までの活動キャリア、音楽ジャンルは問わず、**すべてのアーティストを対象に全国各地より応募を募ります**。審査を通過したアーティストには、表現の舞台を東京・六本木 SuperDeluxe にて提供。さらに新しい表現が存在する場にふさわしいゲストアーティストとして、**Merzbow × 中村達也、MURASAKI** というオンリーワンかつ超実力派な2組にも出演いただきます。表現の境界を押し広げ新たなフィールドへと突き進むこの2組と同じ会場の同じステージで、あなたにしか出来ない音楽を表現してみませんか？

応募出演枠は3組を予定。私たちも信念を持って静と動の表現の振れ幅を見つめ出演者を選出します。当日会場に集まるたくさんのお客様には、新しい才能と豊かな表現の歴史が触れ合う刺激に満ちた一夜をお届けしたいと考えています。ミュージシャンの皆さんからのたくさんのご応募をお待ちしています。共に新しい才能の輝きに満ちた色鮮やかな一夜を作り上げましょう。

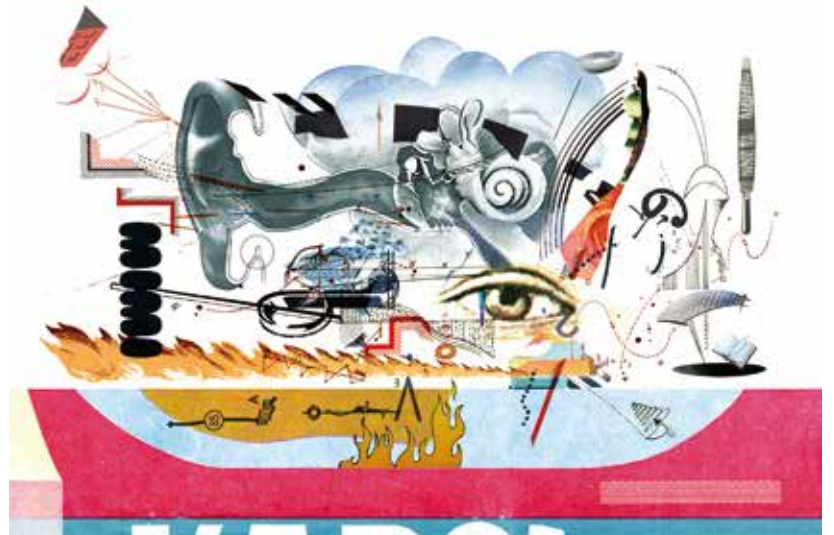
会場 SuperDeluxe
日程 11月23日(日) 18:30 開演
※開場は開演の30分前
料金 前売 1,500円/当日 2,000円

参加アーティスト募集期間

8月18日(月)～9月15日(月・祝)

応募方法詳細は以下まで

www.soundlivetokyo.com/2014/hatsumimi



Artwork by Tetsuya Nagato

ゲストアーティスト プロフィール ★公募アーティストのラインナップは10月30日発表★



@Jenny

メルツボウ Merzbow

秋田昌美によるヴィーガン・ストレイト・エッジ・ノイズ・プロジェクト。80年代初頭のノイズ・インダストリアル・シーンに参加し海外のレーベルを中心にリリースを始める。90年代にはグライندコアの影響を受けデスメタルのレーベル Relapse からアルバムをリリース。2000年代には Mego の「punk な computer music」に共鳴、ラップトップによるライブ手法を採用した。2003年頃から「動物の権利」(アニマルライツ)の観点からヴィーガン(完全菜食主義)を実践している。「捕鯨反対」「イルカ漁反対」「毛皮反対」等をテーマに作品を制作している。近年はアナログ機材を主体にした音作りを行っている。merzbow.net



中村達也 | Tatsuya Nakamura

1965年、富山県出身。原爆オナニーズ、ザ・スターリンなど数々のバンドのドラマーを務めた後、90年に浅井健一、照井利幸と共に BLANKEY JET CITY を結成。解散後は自身のプロジェクト LOSALIOS で5枚のアルバムを発表。また洋邦を問わずジャズ、アヴァンギャルドなど各界のアーティストたちとのセッションも精力的に行っている。現在の活動は LOSALIOS を筆頭に FRICTION、TWINTAIL、SPEEDER-X など多岐にわたる。俳優としても活躍しており、『BULLET BALLET』『涙そうそう』『蘇りの血』、NHK 大河ドラマ『龍馬伝』などに出演。losalios.com



MURASAKI

オーネット・コールマンのもとで学び、20世紀音楽史最大の謎とも言われるコールマンの「ハーモロディクス」理論と実践を会得した数少ないミュージシャンの一人、SOON KIM が今年結成したばかりのサックス、大鼓(おおつづみ)、ベースからなるバンド。高柳昌行、エルヴィン・ジョーンズ、富樫雅彦をはじめ数々の共演歴を持つ筋金入りのジャズベーシスト井野信義、「モダンベースの王者」藤原清登、無形文化財の大鼓能楽師・大倉正之助主催の鼓道研究会との融合で、和も洋も和洋折衷も超えた全く新しいハーモロディック・グルーヴを作り出す。

東京都初耳区 (サウンド・インスタレーション)

まだまだ巡りあったことのない新しい音と音楽に出会いたい！

企画・制作：SuperDeluxe

今回、ライブ・パフォーマンスと日を分けて開催するサウンド・インスタレーションは、SuperDeluxe が新しい体験の可能性を多数のアーティストと共に模索し、発表する意欲的なプログラムとなります。

エレクトロニクス・ミュージシャンを中心に多様なアーティストが従来のサウンド構築から飛躍し、豊かな感性に溢れた新しい体験を届けるべくマルチスピーカーを用いた作品を披露します。この3日間は通常ワンフロアの会場内を体験空間とラウンジ空間に区切りレイアウト。特別な時間と空間を演出します。

作品はすべて体験空間内に配置されたマルチスピーカーを使い披露され、アーティストは体験空間内に配置されたマルチスピーカーの中からそれぞれ自身の表現に適したスピーカーの組み合わせを選び、独自の音響を空間に投影します。

今回のプログラムでは、新しい発見の時間を彩るような鼓動が、体感することでしか得られない実に多彩な表情を見せてくれることでしょう。ぜひともご期待ください。



Artwork by Tetsuya Nagato

会場 SuperDeluxe

日程 12月2日(火)～4日(木) 14:00～22:00

料金 当日 500円

※東京都初耳区(ライブ・パフォーマンス)の半券提示で入場無料になります。

アーティストプロフィール



吉原太郎 | Taro Yoshihara

1968年、東京生まれ。昭和音楽大学作曲学科卒業、山梨大学大学院修了。作曲を豊住竜志、藤原嘉文、電子音楽を成田和子に師事。2001年 INA-GRM フランス国立視聴覚研究所電子音響制作アトリエへ参加。2002年以降は24チャンネル・デジタルマルチトラックによる立体音響作品の制作へ徐々に傾倒。作品や活動は日仏各地のフェスティバル、テレビ、ラジオで紹介されている。富士電子音響芸術祭においては53チャンネル/70スピーカーによる大規模アコースモニウム構築(2014)を手掛けるほか、オリジナル無指向性スピーカー「ION SPACE」(株式会社ソーケン)、ツイーターエンクロージャー(甲斐の匠・小田切)、音場空間コントロールシステム「NILE」(株式会社多聞)の開発に携わる。現在、日本電子音楽協会会員、音と音楽創作工房116運営委員、Gallery Nakamura アドバイザー、SPACE VISION 主宰、SPEAKERS ORCHESTRA メンバー、富士電子音響芸術祭芸術監督、山梨大学教育人間科学部講師、同教育研究開発センター講師。spacevision.biz



NOEL-KIT

古いシンセやサンプレーからMAX/MSPプログラミングまでを縦横に駆使した、静かであてやかな世界観が特徴。エレクトロニック・インプロヴィゼーション・ユニットDUB-Russellの片割れとしてSonarSound Tokyoなどに出演のほか、ジェフ・ミルズのリミックスなども手掛ける。各所で人々をふんわりさせている色々秘密系ガール「ふんわりちゃん」のメカニックや天狗マガジンでの活動も展開中。また、ソロで谷崎潤一郎や水墨画の技法にインスパイアされた『In Praise of Shadows』(Bunkai-Kei records)、『Steamfunk』、『TOKYO NOISE』(Bandcamp)を発表。noelkit.com

次頁に続く ↓

東京都初耳区 (サウンド・インスタレーション)

↓ 前頁から続き



Photo by Ujiri Matsuo

ジム・オルーク | Jim O'Rourke (米国/日本)

1969年シカゴ生まれ。13歳でデレク・ベイリーの音楽と出会いギターの即興演奏に開眼、実験性の高い作品を発表し「シカゴ音響系」と呼ばれるカテゴリーを確立。一方で小杉武久と共にマース・カニングハム舞踊団の音楽を担当、トニー・コンラッド、アーノルド・ドレイブラット、クリスチャン・ウォルフらとの仕事で現代音楽とポストロックの橋渡しをする。超現代的アメリカーナ『Bad Timing』(1998)、フォークやミニマル音楽をミックスした『Eureka』(1999)を発表、また、ソニック・ユースのメンバー/音楽監督として活動(1999~2005)。2004年、Wilcoのプロデューサーとしてグラミー賞を受賞。近年は東京に活動拠点を置き、くろり、カヒミ・カリイ、石橋英子、坂田明、大友良英、山本精一、ボアダムスなどの共同作業から武満徹作品や映画音楽まで多彩な作品をリリース/プロデュース、映画監督としても活動。ソロ最近作は密室的ワンマン・アルバムの極致『The Visitor』(2009)。



畠山地平 | Chihei Hatakeyama

Chihei Hatakeyamaとして2006年にKranky(米)よりファーストソロアルバムをリリース。以後世界中のレーベルから現在に至るまで多数の作品をリリース。デジタルとアナログの機材を駆使したサウンドが構築する美しいアンビエント・ドローン作品が特徴。2011年にはヨーロッパ5カ国10カ所を回るツアーを敢行、To Rococo Rot、ティム・ヘッカーなどと共演。ソロ以外では伊達伯欣とエレクトロ・アコースティックデュオOpitopeとして、SPEKKからアルバムをリリース。ヴォーカリストの佐立努とはLuis Nanookとして、電子音と伝統的なフォークサウンドが混ざり合う音楽世界で、2枚のアルバムをリリース。マスタリング・録音エンジニアとしても、自作の作品のみならず、多くの作品を世に送り出している。またアンビエントミュージックのレーベルWhite Paddy Mountainを主宰している。chihei.org



町田良夫 | Yoshio Machida

音楽家、スティールパン奏者/美術家。多摩美術大学在学中、秋山邦晴に師事し、アート/音楽/映像を総合的に学ぶ。ジャズから電子音響まで、スティールパンからガムラン、エレクトロニクスまで幅広く演奏。山本達久とのデュオ「オハナミ」でも活動する。ISEA2004、SonarSound Tokyo、MaerzMusikなど国内外の音楽祭に参加。Van Cleef & Arpels(仏)の展覧会の音楽なども手がける。音楽レーベル「アモルフォン」を自ら主宰し、国内外の個性的なアーティストを発掘、リリース。2014年春には、Baskaru(仏)より1970年代のアナログシンセSYNTHI AKSのみを使ったアルバムをリリースした。yoshiomachida.com



柴山拓郎 | Takuro Shibayama

1971年東京生まれ。東京音楽大学大学院、東京藝術大学大学院美術研究科後期博士課程(先端芸術表現領域)修了。修士(音楽)、博士(美術)。大学在学中から一貫して西洋的な現代音楽路線とは一定の距離を置き、時間構造の展開を拒むモノトーンで質的な作風にこだわる。1994年第62回日本音楽コンクール、秋吉台国際作曲賞に入選。2007年第34回プルジュ国際電子音響音楽コンクール、2012年、2014年ICMC(国際コンピュータ音楽会議)入選。美術家井上尚子氏とは数多くのインスタレーションを制作、そのコラボレーションは15年にわたる。2008年より、埼玉県立近代美術館を拠点にアートと地域社会を結びつけるSaitama Muse Forum(SMF)の運営委員。近年は、人間の推論と予期的情動がどのように未来や社会の新たな秩序を形成するのかというシステム創発に関する諸問題について、工学・心理学・認知科学等の研究者と共同研究を進めている。現在東京電機大学理工学部情報システムデザイン学系で准教授を勤めるほか、大阪芸術大学、国際基督教大学、女子美術大学非常勤講師を兼任。



CoH (スウェーデン)

1998年よりCoH名義で音源をリリースしているストックホルム在住のロシア人ミュージシャンIvan Pavlov。90年代後半からのraster-noton、Mego、Eskatonといったヨーロッパのレーベルによるコンピューターベースミュージックの流れの中で認知されてきた。ソロでの活動以外に、過去10年の間にCoil、Cyclobe、コージー・ファニ・トゥッティといったミュージシャンとの共同作品をリリースしている。2007年にはピーター・クリストファーソンとユートピア未来的なアートプロジェクトSOISONGを結成、2012年まで活動を続けた。2014年5月にはEditions Megoから新作『TO BEAT』をリリース。post-pop.org



クリストフ・シャルル | Christophe Charles (フランス/日本)

1964年フランス生まれ。1996年、筑波大学大学院芸術学研究科博士課程修了。1997年、フランス国立東洋文化東洋言語研究所大学院博士課程修了。2000年より武蔵野美術大学映像学科准教授。2011年より教授。環境芸術学会理事。メディアアートを専門に、現代芸術における理論的・歴史的な研究を行いながら、内外空間を問わずインスタレーションおよびコンサートを行い、それぞれの要素のバランス、独立性及び相互浸透を追求している。主な作品や活動に、CD作品『undirected』シリーズ、大阪市住まい情報センターコミュニティ(山口勝弘監修)音響担当、東京成田国際空港第1ターミナル中央アトリウム常設サウンドインスタレーションなど。また、山口勝弘、山本圭吾、風倉匠、ヘニング・クリスチャンセン、逢坂卓郎、向井千恵、古館徹夫、武井よしみち、oval、半野善弘、Numb、石川ふくろう、JOU、久保田晃弘、渋谷慶一郎などとのコラボレーションを多数行っている。home.att.ne.jp/grape/charles/



カール・ストーン | Carl Stone (米国/日本)

現在のコンピューターミュージックの先駆者の一人であり、カリフォルニア芸術大学でモートン・サボトニック、ジェームズ・テニーに師事し、1972年から電子アコースティック音楽の作曲を始める。1986年からライブパフォーマンスでコンピューターを使用しており、ヴィレッジボイス誌は「サンプリングの王者」「現在のアメリカで最も優れた作曲家の一人」と賞賛する。ロサンゼルスで生まれ、現在はカリフォルニアと日本を拠点に活躍している。その作品は、アメリカ、カナダ、ヨーロッパ、アジア、オーストラリア、南米、アフリカなどで演奏されており、日本のアーティストとのコラボレーションも大友良英、高橋悠治、清水靖晃、田中悠美子、渋谷慶一郎、中村としまる、内橋和久、桜井真紀子、恩田晃、高橋アキなど多岐にわたる。現在は中京大学工学部メディア工学科の教授であり、作曲や演奏活動の他にレクチャーなども精力的にこなす。sukothai.com

Antigone Dead People

録音された台詞で展開する、現代の、預言者不在の『アンティゴネー』

トロントを拠点とし、「信頼」「服従」「気分が良い」「厳格」「リスク」「大きい」「安い」「演劇」をキーワードに活動する「ほぼ劇団」**Small Wooden Shoe**による、現代の、預言者不在の『アンティゴネー』。2012年にトロントの実験音楽の拠点のひとつ The Tranzac Club で初演されました。登場人物は最初から全員死んでおり、彼らが自分は死んでいると気づいていない間は録音された台詞が使われます。新進サウンド・アーティスト、**クリストファー・ウィレス**が音響を担当。ソフォクレスにおけるトロイア戦争、米軍のPTSDセラピー、Skypeをアフガニスタン経由で結びつけた『Little Iliad』[小イーリアス]とその続編『Ajax』[アイアース]で国際的に注目される若手劇作家、**エヴァン・ウェバー**の書き下ろしです。「腐敗しているが実際的であろうとする国家と理想主義的な個人の際限なく繰り返される対立が、ある種のカラオケ・トラックとして提示される」(ウェバー)。亡霊たちの演じる『アンティゴネー』。彼らが死後も2,000年以上に渡って演じ続けているこの物語は、すでに摩耗し、脱臼し、ソフォクレス版(紀元前441年ごろ)とは異なる意味合いを持つようになっています。さらに亡霊たちは、自分たちが別の物語を語ったらどうなるか考えはじめるに至ります。「数ヶ月、数年に渡ってプロジェクトに取り組む共同作業者たちのコミュニティは、必要とあれば20分で芝居を作り、その夜に上演することもできなくてはならない」と断言する演出家**ジェイコブ・ズィマー**率いる Small Wooden Shoe が、録音された台詞の実験的活用において彼らに先んじ、近年評価を固めつつある関西拠点の公演芸術集団 **dracom** / **筒井潤**との1週間の短期集中共同作業で作上げる日本版、世界初演です。英語/日本語上演、日本語/英語字幕つき。ハードな劇をライブハウス/ラウンジのソフトな環境で、プレヒトの「喫煙劇場」よろしく(客席で喫煙はできませんが)、お気軽にお楽しみください!

会場 SuperDeluxe

日程 12月27日(土) 19:30 開演

12月28日(日) 19:30 開演

※開場は開演の30分前

料金 前売 2,500円/当日 3,000円



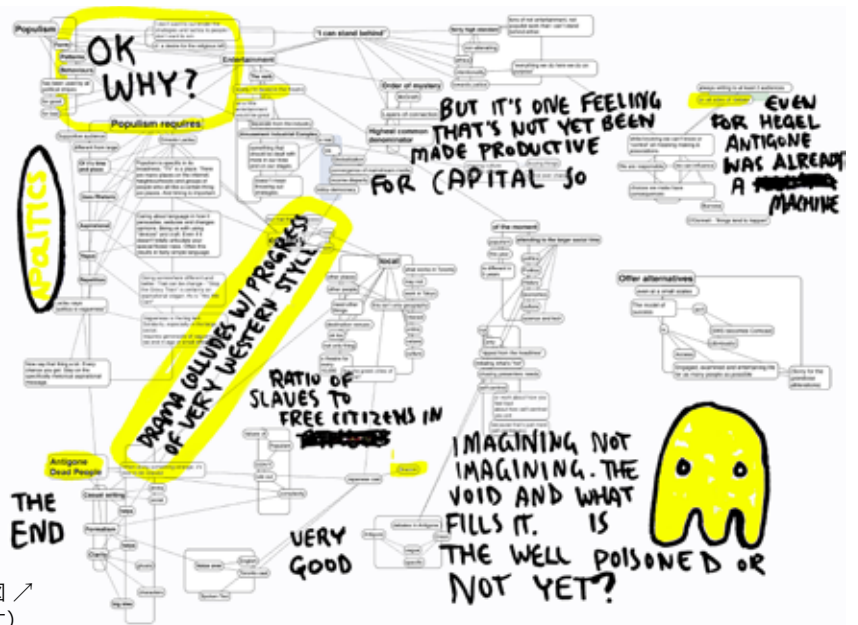
Canada Council
for the Arts

Conseil des arts
du Canada



京都芸術センター
制作支援事業

『Antigone Dead People』コンセプト図
(拡大画像は公式ウェブサイトでご覧いただけます)



アーティストプロフィール



Jacob Zimmer

スモール・ウッド・シュー

Small Wooden Shoe (カナダ)

ジェイコブ・ズィマーがハリファックスで2001年に設立、現在トロントを拠点とする「ほぼ劇団」。名称はフランス語の「sabot」(サボ=木靴、フランスの労働者がストライキで機械を故障させるために使ったことから「サボタージュ」の語源とされる)から。さまざまなバックグラウンドのコラボレーターから成り、作品は少人数の私的パフォーマンスから叙事詩的なものまで幅広い。「よい思想には娯楽性がある」との信念のもと、プレヒトの自らによる新訳を使った大規模なリーディング公演『Life of Galileo from Tracy Wright』、難易度の高い戯曲のリーディングと簡単に歌える歌を組み合わせた『Difficult Plays and Simple Songs』、ラジオの生放送『The Fun Palace Radio Variety Show』、20世紀初頭の炭坑労働者の運動に関するキッチンでの観客との直接対話『Sedition, or Kindness Makes Me Cry Like Nothing Else』、科学革命についての演劇的レクチャー『Dedicated to the Revolutions』、朝から晩までパネリストもレクチャーもなしで展開する『脱会議』、クリスマス・コンサート、オンラインのシンクタンク、市民集会、ワークショップ、レクチャー、出版など多様な形態で活動している。smallwoodenshoe.org



Jun Tsutsui

ドラカム dracom

1992年に劇団ドラマティック・カンパニーとして大阪芸術大学の学生が中心となり旗揚げ。1998年に dracom と改称。劇作家/演出家、筒井潤をリーダーに、「祭典」と呼ばれる本公演を年に1度行う。これまでの「祭典」に、劇場をレンタルしている時間をフルに使った20時間の作品『Green』(2003)、キーワード「ハムレット」で検索して集積したインターネット上の情報をコラージュした『特集・ハムレット』(2004)、あらかじめ録音した台詞と俳優の身体パフォーマンスのずれが奇妙な感覚を生み出す実験的ミュージカル『もれうた』(2007、京都芸術センター舞台芸術賞受賞)、あるスポーツのルールを他のスポーツに適用しようとする若者たちの物語『ハカラスモ』(2008)、会津若松市で起こった母親殺人事件とアイスキュロスのオレスティア三部作に着想を得た『事件母 (JIKEN-BO)』(2010、フェスティバル/トーキョー公募プログラム参加作品)、ソフォクレス『アイアース』と自殺を試みて家の前のどぶに落ちた老人の実話を結びつけた『gutter』(2011)、キャンプ用のテントで10~15人の観客のために上演された『方々ノ態 (in OSAKA, Kitakagaya)』(2013)など。dracom-pag.org

スケジュール／チケット

日時（開場／開演）	プログラム	料金	前売お取り扱い	会場
11月5日（水） 19:00/19:30	マイケル・スノウ＋恩田晃＋アラン・リクト （スノウ ピアノソロ／トリオ）	前売 2,500 円 当日 3,000 円	○チケットぴあ ○ローソンチケット ○イープラス ○WWW／シネマライズ（店頭販売）	WWW
11月6日（木） 19:00/19:30	マイケル・スノウ＋恩田晃＋アラン・リクト （恩田＋リクト デュオ／トリオ）			
11月11日（火） 19:00/19:30	ケイス・ブルーム＋工藤礼子			
11月17日（月） 19:00/19:30	裁かるゝジャンヌ ローレン・コナーズ＋灰野敬二			
11月23日（日） 18:00/18:30	東京都初耳区 （ライブ・パフォーマンス）	前売 1,500 円 当日 2,000 円	○イープラス ○ SuperDeluxe（オンライン予約）★	SuperDeluxe
12月2日（火） 12月3日（水） 12月4日（木） 14:00～22:00	東京都初耳区 （サウンド・インスタレーション）	当日 500 円★	前売なし	
12月27日（土） 12月28日（日） 19:00/19:30	Antigone Dead People Small Wooden Shoe + dracom	前売 2,500 円 当日 3,000 円	○イープラス ○ SuperDeluxe（オンライン予約）★	

※全公演全席自由。チケットに記載の整理番号順にご入場いただきます（サウンド・インスタレーションを除く）。

※当日券情報は各公演日に公式ウェブサイトの「お知らせ」欄で告知します。

★東京都初耳区（サウンド・インスタレーション）は東京都初耳区（ライブ・パフォーマンス）の半券提示で入場無料になります。

★ SuperDeluxe でのオンライン予約（当日精算）には整理番号が発行されません。イープラスの整理番号に続いて、先着順でご入場いただきます。

前売お取り扱い

- チケットぴあ t.pia.jp Pコード：240-498 ☎0570-02-9999
- ローソンチケット l-tike.com Lコード：79993
- イープラス eplus.jp/soundlivetokyo
- WWW／シネマライズ（店頭販売／住所・電話番号は下欄）
- SuperDeluxe（オンライン予約）super-deluxe.com

チケット発売日

8月30日（土）10:00

会場

WWW

www-shibuya.jp

東京都渋谷区宇田川町 13-17 ライズビル地下
☎03-5458-7685 ※シネマライズは同ビル 1F

「いま、ここにしかない」表現の場として 2010 年に渋谷・スペイン坂にオープン。映画館を改装した開放感のある空間にイギリス製の高性能スピーカー「FUNKTION-ONE」を設置、本国と同じ電圧 240V でドライブして最高のパフォーマンスを引き出しています。



SuperDeluxe

super-deluxe.com

東京都港区西麻布 3-1-25 B1F
☎03-5412-0515

2002 年にオープンして以来、広く仕切りの無い空間と自由自在なレイアウトを生かし、国内外の先鋭的で実験的な音楽や映像、パフォーマンスを紹介。近年は海外でのキュレーションも行い、東京を代表するカルチャースポットとして広く親しまれています。



Photo by Hirotake Ooyagi